松浦議員（自民会）

平成 28 年２月 23 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）併設型中高一貫教育校の設置について

県が平成１６年に東広島市に開校した広島中・高等学校は，全県一円を通学区域とする県内のリーディングスクールとして設置され，文部省是正指導から，本県教育が立ち直っていく，言わばシンボルとして，本県の公立学校教育を牽引してきた。

リーディングスクールの役割は，その学校で実践した教育を，他の学校での教育に生かすことであり，今回，検討されているグローバルリーダー育成校の役割として，教育委員会が訴えていることと，全く同じである。

実際に，広島中・高等学校では，生徒募集や進路実績などにおいて，大きな成果を上げており，この成果が全県に広がっていけば，本県の教育水準は，県教育委員会の目標とする「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県」に大きく近づくと思う。

しかし，現状は，いくつかの学校で，難関大学等への進学実績が上がっているなどの成果はあるが，志願倍率や進路実績に関して，広島中・高等学校の成果が全県に広がっているとは言い難い状況にある。

グローバルリーダー育成校設置の検討を進められることに反対をするわけではないが，設置場所を含め，決まっていないことが多すぎるこの学校の設置よりも，まずは，既に成果が出ている広島中・高等学校のノウハウを全県に広げることを優先すべきである。併設型中高一貫教育校を県内数カ所に設置し，そこを拠点にして，県全体を引き上げていく方が，確実に効果が見込まれるし，県全体の教育を引き上げるスピードも速いのではないかと考える。

広島中・高等学校の成果を全県に広げることができなければ，グローバルリーダー育成校をつくったとしても，成果を全県に広げることなど期待できない。

また，平成２６年１２月に策定された，広島版「学びの変革」アクションプランにおいても，他地域における併設型中高一貫教育校については，複数設置を検討することとされており，これについて，教育長が，広島中・高等学校の成果を踏まえて，具体的な構想をできる限り早期にまとめると，本会議で答弁している。

そこで，これまでの経緯を踏まえ，グローバルリーダー育成校の設置より

も，併設型中高一貫教育校の設置こそ急ぐべきと考えるが，教育長の所見を伺う。

（答）

今後の県立高等学校の在り方につきましては，平成２６年２月に策定した基本計画において長期的かつ全県的な視野に立った基本的な考え方を示したところであり，さらに，平成２６年１２月には，グローバル化する２１世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指し，「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定したところでございます。

その中で，本県の更なる成長や持続的な発展に向け，多様で厚みのある人材層を形成していくため，全ての子供たちの学びを支える体制を整えていくこととしており，併設型中高一貫教育校につきましても鋭意，検討を進めているところでございます。

一方，「グローバルリーダー育成校」につきましては，現在進めています「学びの変革」を先導的に実践する学校であることから，全国に先んじて「学びの変革」に取り組んでいる本県が，まさに全国に先駆けて創設してまいりたいと考えております。

教育委員会といたしましては，「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」や「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき，併設型中高一貫教育校の設置も含め，県立学校の体制整備を早急に進めてまいります。